

日本応用経済学会ニューズレター

Japan Association for Applied Economics Newsletter

第16号 2024年8月

日本応用経済学会事務局：〒819-0395 福岡市西区元岡 九州大学経済学部

TEL/FAX：080(5321)7299

E-mail: jaae@jaae.org

<http://www.jaae.org/>

目次

会長挨拶

前会長挨拶

中村保先生ご逝去にあたって

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

学会誌への投稿について

紹介！研究室

編集後記

2023年度決算資料

2024年度予算資料

I. 会長挨拶

日本応用経済学会 会長
長岡貞男

このたび、焼田会長の後を受け、日本応用経済学会の会長に就任いたしました。焼田会長は、学会規定の整備、学会誌のオンライン媒体での刊行など、学会活動のインフラの整備を進められました。その成果を受けて、学会の更なる発展に向けて、努力をしていく所存です。

応用経済学会は、研究途上の成果を発表しフィードバックを頂ける機会を提供していること、発表時間が長いこと、昔から英語でのセッションが多数あること、韓国の学会との国際交流が学会発表を通してなされていること、多様な講演者による講演がなされるなど、独自性のある学会運営がなされていると思っております。

さて、日本経済は多くの課題に直面しております。急激な少子化への対応、技術革新の推進、デジタル・プラットフォームの活用と規制、脱炭素を含めた環境保護の実現、デフレからの脱却、財政・社会保障の持続性の確保などです。課題の多くは世界経済にも共通しています。これらの課題の根本的な理解やその解決策の探求に応用経済学の貢献が期待されていると思えます。

また、近年、因果関係の識別を目指した、計量経済分析の手法が開発され、その活用に必要な企業、家計のパネルデータが利用可能となっていることも、応用経済の活用範囲を広げる重要な発展だと思えます。エビデンスに基づく政策の進展のために、政策の実証的検証に取り組む政府機関も増えており、政策や政策の変更を自然実験とした研究を行う機会も増えております。

このように、応用経済学はその研究を進展させることが期待され、その機会にも恵まれてい

ると言えると思います。学会員諸氏が、学会発表、学会誌への投稿を含め、学会活性化に一層ご協力を頂くことをお願い申し上げて、挨拶とさせていただきます。

II. 前会長挨拶

名古屋市立大学
焼田 党

4年間、会長をさせて頂き、ありがとうございました。非常に貴重な経験をさせて頂いたと感謝しております。コロナ禍でのオンライン学会開催とそれに伴うオンライン会長講演、オンライン学会賞等授与など、考えられないこともありました。また、細江先生からのご提案で、学会費の還元ということで出版も経験させて頂きました。さらに、学会設立10周年ということでの韓国の KEBA および KAAE との共同での記念出版もありました。いずれも、「運良く」会長をさせて頂いていたことから、実質的には細江先生がされたお仕事ですが、編集者に名前を入れて頂きました。福岡大学時代から前身の西日本経済学会でお仲間に入れて頂いて以来、武野先生、細江先生、大住先生をはじめ多くの先生方にお世話になり育てて頂いたお陰です。

会長として少し動いたのは、前会長田中先生からの送り、学会誌のオンライン化の件です。勁草書房様とやり取りをし、紙媒体での出版から2年遅れですが J-STAGE に掲載というところまで進めることができました。学会組織の改善（と考えていますが）を検討しようとしたところで、これは道半ばで時間切れとなりました。

大会開催についても、事務的業務を内部で行ってきた学会ですので、事務局の野崎先生はじめ先生方にほとんど指示されるままに動くことになっていました。それぞれに本務校等での業務を持っておられる中で、大変なご尽力を頂い

たことに感謝しています。

最後に、やはり『応用経済学研究』のラグのないオンライン化を実現して頂くことを期待しています。研究報告と学会誌への投稿を活発にすることに寄与するものと考えます。

至らない、しかもかなり「危なっかしい」会長でご迷惑とご心配をおかけしたことをお詫びしますとともに、ご容赦くださった皆様に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。これからも会員として学会の発展に寄与できればと考えています。

III. 中村保先生ご逝去にあたって



2024年2月15日、日本応用経済学会の創立時より運営にご尽力されました中村保先生（神戸大学）がお亡くなりになりました。生前は設立当初より理事として学会の発展に寄与され、

国際交流委員長や学会誌編集委員会副委員長などを歴任されました。多大な、ご貢献に改めて感謝申し上げます。さて、ここで生前、ご親交のありました松尾匡先生（立命館大学）よりお言葉を頂いており、下記の通り、ご紹介させていただきます。

安岡匡也（関西学院大学）

中村さんは私よりも1年早く神戸大学の経済学の大学院に入学されたのですが、途中病気されたか何かでお休みされていたので、後期課程からは同じ学年になりました。

経済学研究科の院生たちは、院生の自治組織である院生協議会の執行部を、マスター1年生とドクター1年生の全員で担っていたので、ドクター1年のときの執行部活動は中村さんといっしょになりました。のちに日銀審議委員にもなった宮尾龍三君が執行部の委員長だったのですが、任期途中で神戸大学に助手採用が決まったのを受けて、中村さんが後継の委員長を引き受けてくださいました。そんなこともあって、私たちの学年の者はみな、終始先輩として気を遣いつつも、同期並に中村さんと親しく付き合ってきました。もとより私は、置塩信雄先生、足立英之先生、そして置塩先生退官後は後継の中谷武先生のゼミが中村さんと一緒でしたので、格別つきあいが深かったと言えます。

息を吐くように冗談を言い、決して偉ぶらず謙遜に努める姿勢は、楽しいコミュニティを作って中村さんの能力を発揮するために役立ったと思いますが、本来直情的で人一倍繊細な中村さんが、怒りや傷つきを誤魔化すためのものでもあることを、私たちはよくわかっていました。同期であって同期でない微妙さの中で、そうやって気を遣ってくれていることをみんな感謝していました。

その後も個人的には、部屋に泊めてもらった

り、新婚時の妻と山口を案内してもらったり、凌霜会手続きに付き合ってもらったり等々と、一方的にお世話になってばかりで、何も返せていないことが悔やまれます。せめていつか学術的に面白がってもらえるものを見せたいと思っていたのですが、学術的でないことにかまけてばかりで呆れられたままだったのだろうなと思うと、忸怩たるものがあります。

去年足立ゼミのOB研究会で大病からの生還自慢話で負けたと思っていた矢先でしたので、逝去の報には脱力しました。校務多忙な重職でご活躍でしたが、相変わらず、息を吐くような冗談と謙虚な姿勢でストレスを隠して能力を發揮していたのではないかと思ったりもします。本人なら、お手本にするより戒めにしろと自虐混じりで言うに違いないと思い、自愛に努めたいと思っていますところでは。

松尾匡（立命館大学）

IV. 理事会報告

IV-1. 2023 年度第 2 回理事会報告

日時：11 月 4 日（土）11 時 00 分～

会場：慶應義塾大学 北館 大会議室

出席者：焼田、木原、長岡、福重、藤田、細江、坂上、小川、大住、堀、大森、大内田、柳瀬、瀧本、土居、安岡、松浦、野崎、以上 18 名（敬称略）

坂上理事より開会の挨拶があり、開催校の藤田康範実行委員長より挨拶が行われた。

議題

1. 新入会員・退会会員承認（資料 1）

事務局より、資料 1 に基づき、新入会員・退会

会員、並びにシニア会員への変更について説明があり、承認された。

2. 編集委員会報告（資料 2）

大住編集委員長より、資料 2 に基づき、編集進捗により説明が行われ、承認された。

3. 国際交流の件（実績報告）（資料 3）

大住国際交流委員長より、資料 3 に基づいて説明が行われ、実績報告について承認された。

4. 2023 年度学会賞選考スケジュール（案）（資料 4）

長岡学会賞選考委員長より、資料 4 に基づいて説明が行われ、承認された。

5. EBSCO 掲載について

事務局から EBSCO 社より学会誌掲載論文の情報の掲載について依頼がきていることが説明された。焼田会長より、問題ないと思われるので、EBSCO 社から連絡があり、進展があれば進めて欲しい旨が提案され、承認された。

6. Innovation and Green Development のサイトへの掲載

Innovation and Green Development より、学会の申し込み情報を PR したいとの申し出があったことが事務局より説明された。この件について、Elsevier 社のサイトに掲載するののかという質問と、申込があった際にどのように対応するのかを詰める必要があるということになり、継続審議となった。

7. 学会会則の改正案について

焼田会長より、別紙資料に基づき、学会則の付則の改正について提案が行われ、今回は協議に近い形で意見を聞き、次回の理事会で方向性を

定められたらという旨の説明が行われた。意見として、会員数が多いと思われる大学から理事が出ておらず、活躍して頂きたいし、会員が少ない大学でも活躍されている方を理事に推薦してよいのではないかという意見がでた。焼田会長より意見があれば、会長、または事務局に提出して欲しいと説明され、継続審議となった。

8. 令和6年度春季大会について

次年度の開催校を代表して、堀宣昭理事より挨拶が行われ、日程案について説明が行われた。日程については令和6年6月8日(土)、9日(日)を予定していることが説明された。

9. 令和6年度秋季大会について

次年度の秋季大会の開催校については未定であり、会長より理事に協力の依頼があった。

10. その他

なし。

報告

1. 学会誌の Web 化 (J-Stage) の掲載について事務局より、学会誌の J-Stage への公開準備が終わり、8 月中旬より公開されていることが説明された。

2. その他

なし。

IV-2. 2024 年度第 1 回理事会報告

日時：6月8日(土) 10時30分～11時35分

会場：九州大学大橋キャンパス 7号館ワークショップ室

出席者：焼田、長岡、木原、藤田、福重、中山、林田、坂上、堀、柳瀬、大内田、瀧本、大住、大森、伊ヶ崎、安岡、池下、野崎 以上 18 名 (敬称略)

司会の藤田常務理事より開会の挨拶が行われた。次に開催校を代表して瀧本理事より挨拶が行われた。議事に入る前に、2月15日に逝去された故中村保氏の弔意を表して黙祷が行われた。

議事

1. 新入会員・退会員承認 (資料 1)

事務局より資料 1 に基づき、令和 5 年 11 月 3 日から令和 6 年 6 月 6 日までの期間の入会者、シニア会員変更者、退会者について説明が行われた。会員の入会者が 10 名、賛助会員 1 団体、シニア会員 1 名、退会者 4 名について説明が行われ、承認された。

2. 令和 5 年度会計報告 (資料 2)

野崎常務理事 (財務担当) より、資料 2 に基づき、令和 5 年度会計報告が行われた。次に監事の森田氏より適切に使用されていることの監査報告が行われた。審議の結果、会計報告が承認された。

3. 令和 6 年度予算 (案) (資料 3)

野崎常務理事 (財務担当) より、資料 3 に基づき、令和 6 年度予算案について説明が行われた。審議の結果、承認された。

4. 編集委員会報告 (資料 4)

大住康之学会誌編集委員長より資料 4 に基づき、編集状況について説明が行われた。編集方針についての質問があり、大住編集委員長より、編集委員長、副編集委員長が査読者の査読結果をもとに採択の判断をしている旨が説明された。

5. 学会賞選考委員会報告（資料5）

長岡学会賞選考委員長より学会賞の選考結果について報告が行われ、選考委員会において、学会賞を柳瀬明彦氏、学術論文賞を沖本まどか氏、奨励賞を Cece Cherif Madoum 氏に授与することが説明された。審議の結果、承認された。

6. 国際交流委員会報告（資料6）

大住国際交流委員長より資料6に基づき、昨年11月から春季大会までの国際交流に関する実績報告が行われ、審議の結果、承認された。

7. 規則改正について（資料7）

焼田会長より学会則の改正について資料7に基づき、説明が行われた。また、会則改正に伴い、理事会運営規定を新たに制定したい旨が説明された。

理事会運営細則について、意見が出され、文言の体裁が整っていないところがあるので、統一した方が良いとの意見が出され、統一することとなった。委任状の様式を作成頂きたいという意見があった。委任状は出席としてカウントされるかについて質問があり、焼田会長より出席としてカウントされるとの回答が行われた。

ゆうちょ銀行の名義変更が厳しくなっており、会計管理責任者を明記しなければならなくなつてようだ。そこで、会則に会計管理責任者の文言がないので、常務理事（財務担当）が会計管理責任者という文言を加えた方がよいのではないかという意見があった。これについては審議の結果、理事会において、文言については会長一任とし、その文言を総会で審議することになった。付則2について「学会は平成18年6月10日に設立し、・・・」とあるが、これは、「学会は平成18年6月10日に設立され、・・・」ではないかという意見が出され、意見通りに修正

して、総会の審議にかけることとなった。

会長より、以上の修正をもって、総会の審議にかけたい旨の発言があり、承認された。

8. 役員改選 I

焼田会長より常務理事会の結果、次期会長に長岡貞男副会長を、次期副会長に木原隆司副会長、福重元嗣常務理事を推薦することが説明された。審議の結果、次期会長、副会長について承認された。

9. 役員改選 II（別資料1）

焼田会長より別資料1に基づき、次期の常務理事、理事について説明が行われ、了承された。

10. 委員改選（別資料2）

焼田会長より別資料2に基づき、学術理事、委員会委員について説明が行われ、審議の結果、承認された。

11. 今年度秋季大会について

焼田会長より、今年度秋季大会が11月9日（土）、10日（日）に関西学院大学にて開催が内定していることが説明され、審議の結果、承認された。その後、安岡理事より挨拶が行われ、関西学院大学上ヶ原キャンパスでの開催であることが説明された。

12. 秋季大会プログラム委員長について

焼田会長より、今年度秋季大会のプログラム委員長を宮澤和俊氏（同志社大学）にお願いしたい旨が説明され、すでに内諾も得られていることが説明された。審議の結果、承認された。

13. Innovation and Green Development サイトへの大会情報掲載について

事務局より、三重大の内田秀昭先生を通じて、

報告申込などについて確認したところ、通常の入会申し込み、報告申込で構わないとのことであることが確認できたとの報告が行われた。大会の情報が Innovation and Green Development のジャーナルサイトに載るということで間違いないかとの質問があり、その通りである旨の回答が事務局より行われた。また、掲載される文言については、事務局側で確認することとなった。

14. その他、
特になし。

報告

1. 西日本支部大会について（当日配布）
池下理事・西日本支部幹事より西日本支部大会のついでに報告が行われた。

2. その他
大森理事より、中京大学での開催については2026年度以降であれば、開催できる旨の報告が行われた。

以上をもって議事は終了し、最後に焼田会長より挨拶が行われた。

藤田常務理事に進行を戻し、藤田常務理事より閉会の挨拶が行われた。

以上
(文責) 事務局 野崎

V. 学会誌『応用経済学研究』編集委員会報告

編集委員会委員長

大住康之（兵庫県立大学）

2023年11月以降、9本の投稿があり、1本が採択、審査中が7本、棄却が1本です。なお、2020年12月から2023年10月のものについては修正待ちのものが4本、審査中のものが4本とな

っております。2024年4月に合併号の形で「応用経済学研究」第16・17巻が勁草書房より出版されました。

VI. 2023年度学会賞について

学会賞選考委員長

長岡貞男（一橋大学名誉教授）

2023年度学会賞の選考については、12名の審査委員の先生にご協力を頂き、奨励賞については、13名の審査委員の先生にご協力を頂き、以下の結果となりました。

学会賞

柳瀬 明彦氏(名古屋大学)

(受賞理由)

柳瀬明彦氏は、国際貿易や経済成長の分野で、公共インフラストラクチャー、環境汚染などの外部効果を組み込んだモデルの分析によって、貿易政策や課税政策への重要な含意がある、独自性の高い理論研究を継続的に進めてこられた。その成果は、Dynamic Games and Applications、Canadian Journal of Economics、International Tax and Public Finance などの査読付き国際学術誌に多数掲載され、国際的にも高く評価されている。さらに、本学会においても報告、討論、座長、学会賞選考委員などの形で貢献されており、2022年度春季大会ではプログラム委員長として大会開催に貢献するなど、学会運営にも貢献してこられた。

学術論文賞

沖本 まどか氏（静岡県立大学）

論文 「社会規範と社会比較ナッジが消費行動に与える影響：保健行動を事例として」

応用経済学研究、第16・17巻

論文は、社会比較ナッジの消費者行動への影響を分析した先駆的な研究である。高社会規範者とその行動から影響を受ける低社会規範者との二つのタイプの消費者が存在するモデルを構築して分析している。高社会規範者の健康財を選好する行動が、社会比較ナッジを通して低社会規範者にも健康財の選択を促すこと、同時にそのような社会比較ナッジの過程への政策介入がそのような効果を妨げ、逆の行動を促してしまう危険性もあることを指摘している。重要な問題に取り組んでおり、今後の研究の発展が期待される。

奨励賞

Cece Cherif Delamou 氏(名古屋大学大学院)
論文：Fiscal Shocks in a Two-Asset RBC Model: A Simulation of the Guinean Economy
応用経済学研究, 第 16・17 巻

(受賞理由)

論文は、民間資本と公的資本が存在する動学的一般均衡モデルを用いてギニア経済における財政政策の効果を検証した研究である。ギニア経済を対象としたシミュレーション分析は既存研究に無く、国債発行、消費税の活用を含めて、ギニアの長期的な経済発展のための政策の在り方について貴重な情報を提供する論文だと考えられる。今後さらなる研究成果を挙げる事が期待できる。

VII. 国際交流委員会報告

国際交流委員会委員長
大住康之(兵庫県立大学)

1. KEBA への派遣について

2023 年 11 月 17 日(金)に群山大学校(Kunsan

National University)にて、2023 Fall International Conference が開催され、本学会からは、吉田友紀先生(佐賀大学)、鈴木崇文先生(愛知淑徳大学)、森田圭亮先生(神奈川大学)、Tran Quoc Bao 氏(兵庫県立大学大学院生)、大住康之(兵庫県立大学)の 5 名が、吉田先生に派遣団代表として参加され、報告を行いました。このうち Tran Quoc Bao 氏(兵庫県立大学大学院生)、大住康之(兵庫県立大学)はオンラインで参加し報告を行いました。

2. KAAE 大会への派遣について

2024 年 4 月 26 日(金)に高麗大学校(Korea University)にて 2024 KAAE Conference が開催され、本会からは、平賀一希先生(名古屋市立大学)と Yaqi Wang 氏(名古屋大学大学院生)の 2 名が参加し、報告いたしました。

当初、5 名の応募があり、1 名を座長として、4 名を報告者として派遣決定していましたが、1 名は本人都合のため、2 名は査証の取得が間に合わず、キャンセルとなってしまいました。新型コロナウイルス感染症や世界情勢の関係で、査証の取得に時間がかかるようです。今後の募集では、査証の取得が必要な方への注意喚起をアナウンス時に行うなど、改善を行いたく考えます。

3. KEBA からの参加

2024 年春季大会に 6 名の方が参加されます。参加者は以下の通りです。

Iltae Kim 氏(Chonnam National University)は座長として、Yoonmin Kim 氏(Keimyung University)、Kangsik Choi 氏(Pusan National University)、Jong-Hwan Ko 氏(Pukyong National University)、Chul-Hi Park 氏(Chonnam National University)、Yang, Jung-Seung 氏(Kunsan National University)は報告

者として参加です。

VIII. 学会誌『Studies in Applied Economics 応用経済学研究』への投稿について

編集委員会報告にもありましたように、会員の皆様からの学会誌の投稿をお待ちしております。投稿は随時可能です。投稿規程等については学会Webサイトにてご確認下さい。

IX. 紹介！研究室

今回は異一樹(青森公立大学)研究室を紹介させていただきます。青森公立大学は、雲谷(もや)峠という青森県青森市にある山の周辺にあります。大学には、安藤忠雄が設計した建築物もあり、講義室から廊下に至るまで芸術家たちのこだわりを感じさせられる造りになっています。

研究内容としては、日本を含む先進諸国の経済の低成長に問題意識を持って取り組んでおります。特に、ロボットによる労働の代替や少子高齢化を扱った研究を行っております。ゼミでは、学生たちで共通の研究テーマを決め、1年間かけて共同論文を執筆するといったことを行っております。地方部では、都市部よりも少子高齢化に悩まされているからか、学生も人口問題に関心を持っている傾向にあります。

教育に対する方針としては、学生には主体的に学び、経済学的に思考できるようになってもらいたいと思っております。授業では、学生にはできるだけ初めから答えを与えず、学びの材料や興味を引くことができる話題を準備できるように心がけています。今後は、青森県など自治体と連携してゼミで政策提言などできないか考えています。

大学院を修了してから、3年が経過しようとしております。ただ、まだまだ研究者としては未熟で、研究すればするほど、わからない問題が増えていく一方です。これにめげず、今後も

研究活動を続けていきたいと考えております。

青森公立大学経営経済学部

講師 異一樹



X. 編集後記

コロナウイルスの感染拡大のニュースは定期的には流れるものの、ウィズコロナと言いますか、コロナウイルスと共存しながらの社会活動が選択されました。学会も対面での開催が当たり前になりつつあります。そして、懇親会なども通常通りの開催となり、社会活動上はコロナウイルス発生前の社会に戻ってきたように思います。コロナウイルスの問題によって対面での学会開催ができなかったことは学術交流的に大きな損失を言わざるを得ませんが、それを取り戻す事もこの社会では可能であると私は希望を持っています。

先日の学会では、久しぶりに私も懇親会に参加しました。懇親会を通じた交流は大切です。色々とお話して、例えばどのような研究をやっているのかとか、今度、研究会開催しませんかとか、そこからさらに交流が広がります。交流が交流を呼ぶ感じですか。そして、懇親会では実に多くの学会員の方々によって学会が運営されているなど感じます。それを感じるとともに学会運営関係者への感謝、そのような気持ちもわいてきます。オンライン学会にはオンライン学会の良さもあると思いますが、対面で新たな

交流そして関係者への感謝などの気持ちを持つことも対面開催の重要な所と思いました。

2024年度秋季大会は私の大学での開催となります。是非、多くの方にご参加頂きたく思います。

最後になりましたが、私自身の大学院における指導教授の訃報の記事を私自身が記載するというのは本当に辛いものです。元々、中村先生から日本応用経済学会を紹介していただきまして、第1回の時から参加させて頂いております。私自身の体調不良もあり、なかなか懇親会でお話しすることはできなかつたのですが、今、私は体調が回復しただけに、是非、学会の懇親会でお話をしたかったという悔いが残っています。また、先生からは年賀状を頂いており、その中でも「くれぐれもご体調をご自愛ください」とお気遣いのお言葉を頂いたことも忘れることはできません。

安岡 匡也（関西学院大学）

令和5年度 日本応用経済学会 会計報告
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	11,607,009	11,607,009	0
会費収入	3,950,000	3,780,000	-170,000
学会誌収入	0	0	0
利子収入	1	3	2
開催補助費返還分	0	404,897	404,897
(収入小計)	3,950,001	4,184,900	234,899
合計	15,557,010	15,791,909	234,899

現金・預金残高

令和5年度期首	小計
ゆうちょ事務センター	10,529,461
ゆうちょ口座	368,179
福岡銀行	351,365
現金	358,004
期首繰越額	11,607,009

令和5年度期末	小計
ゆうちょ事務センター	12,897,371
ゆうちょ口座	236,181
福岡銀行	46,036
現金	531,441
期末繰越	13,711,029

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	150,000	58,026	91,974
消耗品費	50,000	41,350	8,650
事務補助費	500,000	353,301	146,699
学会開催補助費	800,000	800,000	0
理事会開催補助費	120,000	93,720	26,280
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
シンポジウム等補助金	200,000	218,000	-18,000
学会賞	90,000	50,600	39,400
国際交流費	300,000	248,772	51,228
払込手数料	75,000	61,707	13,293
学会誌購入	3,800,000	0	3,800,000
学会webサイト運営費	30,000	29,784	216
学会誌Web化費用	200,000	125,620	74,380
雑費	20,000	0	20,000
小計	6,385,000	2,080,880	4,304,120
繰越金	9,172,010	13,711,029	-4,539,019
合計	15,557,010	15,791,909	-234,899

上記の通り報告致します。

常務理事(財務担当)

野崎 竜太郎

会計担当幹事

池下 研一郎

監査の結果、上記相違ありません。

監 事

森田 充

令和6年度 日本応用経済学会 予算
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	13,711,029	
会費収入	3,950,000	(10,000円×380人) + (5,000円×30人)
利子収入	1	
学会誌収入	0	
(R5収入小計)	3,950,001	
合計	17,661,030	

2. 支出の部

項目	予算額	備考
通信費	150,000	
消耗品費	70,000	
事務補助費	500,000	事務補助員アルバイト代(2万円×10ヶ月)及び旅費(8万×2)400,000円とその他アルバイト代
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
理事会開催補助費	120,000	60,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シボシム等補助金	200,000	
学会賞	90,000	
国際交流費	400,000	4名2泊(春季大会)、2人2泊宿泊費(秋季大会)および、派遣分6名2泊
払込手数料	75,000	
学会誌購入	3,600,000	16・17巻発行予分(1,580,000円) + 18巻(2,000,000円の見込み) + 15巻PDF
学会webサイト運営費	30,000	
雑費	20,000	
小計	6,105,000	
予備費	11,556,030	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	17,661,030	